平成 26 年３月 20 日

各　位

会 社 名　株 式 会 社 ホ ッ ト マ ン
代表者名　代 表 取 締 役 伊 藤 信 幸
（コード番号：3190　東証ＪＡＳＤＡＱ）
問合せ先　管理本部総務課課長　佐 竹 圭 二
（TEL.022-243-5091）

東京証券取引所ＪＡＳＤＡＱへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、平成 26 年３月 20 日に東京証券取引所ＪＡＳＤＡＱに上場致しました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

なお、当社の当期の業績予想は以下の通りであり、また、最近の決算情報等につきまして別添の通りであります。

【個別】　（単位：百万円、％）

	平成 26 年３月期（予想）			平成 26 年３月期第３四半期累計期間（実績）		平成 25 年３月期（実績）	
		構成比	対前期増減率		構成比		構成比
売上高	22,421	100.0	△2.2	17,383	100.0	22,931	100.0
営業利益	1,001	4.5	△1.9	756	4.4	1,021	4.5
経常利益	1,033	4.6	△1.7	787	4.5	1,050	4.6
当期（四半期）純利益	558	2.5	△3.1	416	2.4	576	2.5
１株当たり当期（四半期）純利益	106 円 38 銭			80 円 41 銭		111 円 18 銭	
１株当たり配当金	10 円 00 銭			―		10 円 00 銭	

（注）１．当社は子会社がありませんので、連結財務諸表は作成しておりません。
２．平成 25 年３月期（実績）及び平成 26 年３月期第３四半期累計期間（実績）の１株当たり当期（四半期）純利益は、期中平均発行済株式数により算出しております。
３．平成 26 年３月期（予想）の１株当たり当期純利益は、公募株式数（1,820,000 株）を含めた期中平均発行済（予定）株式数により算出しております。なお、当該株式数には、オーバーアロットメントによる売出しに関連する第三者割当増資分（最大 273,000 株）は含まれておりません。

本資料に記載されている当社の業績見通しは、本資料の日付時点において入手可能な情報による判断及び仮定を前提にしており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合があります。

以　上

平成26年３月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成26年３月20日

上場会社名　　株式会社ホットマン　　上場取引所　東
コード番号　　3190　　ＵＲＬ　http://www.yg-hotman.com/
代表者　　（役職名）代表取締役　　（氏名）伊藤　信幸
問合せ先責任者　（役職名）専務取締役管理本部長　　（氏名）柳田　聡　　ＴＥＬ　022（243）5091
四半期報告書提出予定日　　－　　配当支払開始予定日　－
四半期決算補足説明資料作成の有無：　無
四半期決算説明会開催の有無　　：　無

（百万円未満切捨て）

１．平成26年３月期第３四半期の業績（平成25年４月１日～平成25年12月31日）

（１）経営成績（累計）　　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年３月期第３四半期	17,383	－	756	－	787	－	416	－
25年３月期第３四半期	－	－	－	－	－	－	－	－

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年３月期第３四半期	80.41	－
25年３月期第３四半期	－	－

（注）平成25年３月期第３四半期は、四半期財務諸表を作成しておりませんので、平成25年３月期第３四半期の数値及び前年同四半期増減率の記載をしておりません。

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年３月期第３四半期	15,211	4,625	30.41
25年３月期	13,861	4,239	30.59

（参考）自己資本　　26年３月期第３四半期　　4,625百万円　　25年３月期　　4,239百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年３月期	－	－	－	10.00	10.00
26年３月期	－	－	－		
26年３月期（予想）				10.00	10.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無

３．平成26年３月期の業績予想（平成25年４月１日～平成26年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,421	△2.2	1,001	△1.9	1,033	△1.7	558	△3.1	106.38

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　無

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年３月期３Ｑ	5,182,500株	25年３月期	5,182,500株
②　期末自己株式数	26年３月期３Ｑ	－株	25年３月期	－株
③　期中平均株式数（四半期累計）	26年３月期３Ｑ	5,182,500株	25年３月期３Ｑ	－株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外でありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料３ページ「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧下さい。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 4
（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 4
（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 4
３．継続企業の前提に関する重要事象等 …… 4
４．四半期財務諸表 …… 5
（１）四半期貸借対照表 …… 5
（２）四半期損益計算書 …… 7
（３）四半期財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 ） …… 8
（セグメント情報等） …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期累計期間における我が国の経済環境は、平成24年12月の政権交代後の経済政策により円安・株高が進み、日本経済は全体として景気回復に向けた動きが見受けられ、個人消費も消費マインドの改善により一部回復の兆しが現われております。しかしながら、企業の設備投資や個人の所得は未だ低迷したままであり、先行きの景気回復については依然として不透明な状況で推移しております。

そのような環境の中、当社におきましては、「笑顔」と「元気な挨拶」をモットーに、来店されたすべてのお客様に最高の満足を提供すべく顧客満足度向上をはかって参りました。震災から２年が過ぎ、当事業年度は創業40周年という節目の年を迎えております。会社方針に「ホットマンは永遠のチャレンジ企業〈挑戦なきにして結果なし〉」を掲げ、企業の永続的な繁栄を実現するため、社員全員がチャレンジ精神を持って成長し、昨今多種多様化している顧客のニーズにいかにして対応するべきか日々取り組んでおります。

当第３四半期累計期間の出退店はなく、イエローハットが80店舗、TSUTAYAが８店舗、アップガレージが６店舗、ガリバーが３店舗、ダイソーが２店舗、自遊空間が１店舗、セガが１店舗、宝くじ売場が５店舗の合計106店舗となっております。

この結果、当第３四半期累計期間の業績は、売上高は17,383百万円、経常利益は787百万円、四半期純利益は416百万円となっております。

セグメント別の業績は次の通りであります。

［イエローハット］

当社の主たる事業であるイエローハット事業が属するカー用品業界におきましては、前事業年度における地デジ対応商品の需要増からの反動減により、カーナビゲーション等の販売単価が下落し、さらにカーディーラーによる新車販売時にはカーナビゲーションの純正装備が主流となり、カー用品店における需要は低迷しております。そのような環境の中、当社のイエローハットでは、入庫車両の点検を実施し、ピンポイントでＤＭを発送する等の施策により、タイヤ販売と車検販売は順調に売上高を伸ばし、前事業年度の「エコカー補助金」による新車登録台数の増加に伴った「スタッドレスタイヤ等の特需」の反動減を感じさせない売上水準となりました。

また、平成26年４月に控えた消費税増税前の駆け込み需要が期待され、同年３月に春タイヤを中心とした高額商品の需要が集中することが見込まれることもあり、「高額商品の購入はお早めに」といった告知等を開始しております。

この結果、当第３四半期累計期間の業績は、売上高14,330百万円、セグメント利益（営業利益）は924百万円となりました。

［TSUTAYA］

TSUTAYA事業におきましては、競合店に対抗すべく恒常的に「旧作100円レンタル」を展開しておりましたが、レンタル業界の市場規模が縮小する中、低価格競争からの脱却をはかるべく、一部店舗にてレンタル価格を見直し、試験的に値上げを実施しております。また、ネット配信の普及に伴い、ＣＤ・ＤＶＤ・ゲーム等の売上不振が続いており、打開策として書籍販売の強化を進めると共に、利益向上を目的とした費用等の見直しも進めて参りました。

この結果、当第３四半期累計期間の業績は、売上高1,626百万円、セグメント利益（営業利益）は24百万円となりました。

［その他］

アップガレージ事業におきましては、㈱アップガレージの新業態「東京タイヤ流通センター」を全店舗で導入し、新品タイヤをリーズナブルでシンプルな価格設定で提供する新しいスタイルが、メーカーやブランドにこだわりを持たない顧客層に受け入れられております。新品販売の増加により利益率は低下したものの、売上高を大幅に伸ばしました。

ガリバー事業におきましては、平成26年４月に消費税増税を控え、新型車両（エコカー等）への乗換を希望する顧客のニーズにより、小売販売を中心に売上高を大幅に伸ばし、下取査定件数も増加しております。販売力のより一層の強化をはかるべく、車両販売イベントを実施するなど積極的な営業活動を行って参りました。

ダイソー事業におきましては、平成25年10月に競合店が近隣にオープンしたことや震災復興に伴い人口が流出したことが影響し、厳しい状況となりました。そのような中でも、ご来店頂ける顧客に対し丁寧な接客と飽きのこない商品展示に注力し、前事業年度に近い売上高を維持して参りました。

自遊空間事業におきましては、顧客にさらなる快適な滞在時間を提供すべく、ブース環境やコミック棚の改善及びダーツグッズの充実をはかり、売上高は順調に推移しております。

宝くじ事業におきましては、「BIG」「toto」の導入や、高額当選看板の効果により認知度が向上したことにより、売上高は順調に推移しております。

この結果、当第３四半期累計期間の業績は、売上高1,426百万円、セグメント利益（営業利益）は98百万円となりました。

（２）財政状態に関する説明

①　資産

当第３四半期会計期間末における流動資産の残高は1,615百万円増加し、8,449百万円（前事業年度末6,833百万円）となりました。これは主に、商品が784百万円、現金及び預金が581百万円増加したことによるものであります。

また、固定資産の残高は264百万円減少し、6,762百万円（前事業年度末7,027百万円）となりました。これは主に、減価償却並びに減損損失により有形固定資産が263百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産残高は15,211百万円（前事業年度末13,861百万円）となりました。

②　負債

当第３四半期会計期間末における流動負債の残高は1,234百万円増加し、7,074百万円（前事業年度末5,840百万円）となりました。これは主に、未払法人税等が120百万円、賞与引当金が87百万円減少したものの、短期借入金が800百万円、買掛金が637百万円増加したことによるものであります。

また、当第３四半期会計期間末における固定負債の残高は269百万円減少し、3,511百万円（前事業年度末3,780百万円）となりました。これは主に、退職給付引当金が68百万円増加したものの、長期借入金が259百万円、社債が50百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計残高は10,586百万円（前事業年度末9,621百万円）となりました。

③　純資産

当第３四半期会計期間末における純資産の残高は385百万円増加し、4,625百万円（前事業年度末4,239百万円）となりました。これは主に、四半期純利益を416百万円計上したことによるものであります。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年３月期の業績予想につきましては、高額品を中心に消費税増税前の駆け込み需要（以下、「増税特需」という。）が見込まれます。当社のイエローハット事業、アップガレージ事業、ガリバー事業においては増税特需による業績への影響は大きいと予想しており、売り逃し対策、事前告知等の施策を行うと共に、固定客づくりを促進して参ります。

平成26年３月期の業績見通しにつきましては、売上高22,421百万円、営業利益1,001百万円、経常利益1,033百万円、当期純利益558百万円を見込んでおります。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

４．四半期財務諸表

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （平成25年３月31日）	当第３四半期会計期間 （平成25年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,205,604	1,787,000
売掛金	485,778	643,787
商品	4,281,258	5,065,579
貯蔵品	2,539	2,644
その他	859,260	951,441
貸倒引当金	△541	△909
流動資産合計	6,833,898	8,449,544
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,712,460	2,508,371
土地	1,784,353	1,784,353
その他（純額）	583,564	523,853
有形固定資産合計	5,080,378	4,816,578
無形固定資産	57,038	41,284
投資その他の資産		
その他	1,890,160	1,904,515
貸倒引当金	△324	－
投資その他の資産合計	1,889,836	1,904,515
固定資産合計	7,027,253	6,762,378
資産合計	13,861,152	15,211,922
負債の部		
流動負債		
買掛金	769,541	1,407,436
短期借入金	2,400,000	3,200,000
未払法人税等	446,530	325,824
賞与引当金	102,141	14,666
ポイント引当金	200,796	212,115
その他	1,921,450	1,914,433
流動負債合計	5,840,460	7,074,476
固定負債		
社債	150,000	100,000
長期借入金	2,451,810	2,192,230
退職給付引当金	581,902	650,700
役員退職慰労引当金	132,479	124,301
資産除去債務	129,771	131,794
その他	334,828	312,541
固定負債合計	3,780,791	3,511,566
負債合計	9,621,251	10,586,043

（単位：千円）

	前事業年度 （平成25年３月31日）	当第３四半期会計期間 （平成25年12月31日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,410,000	1,410,000
利益剰余金	2,767,721	3,132,618
株主資本合計	4,177,721	4,542,618
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	62,178	83,260
評価・換算差額等合計	62,178	83,260
純資産合計	4,239,900	4,625,879
負債純資産合計	13,861,152	15,211,922

（２）四半期損益計算書

（第３四半期累計期間）

（単位：千円）

	当第３四半期累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年12月31日）
売上高	17,383,583
売上原価	10,391,077
売上総利益	6,992,505
販売費及び一般管理費	6,236,107
営業利益	756,397
営業外収益	
受取手数料	28,812
受取賃貸料	40,034
その他	62,625
営業外収益合計	131,472
営業外費用	
支払利息	60,645
賃貸収入原価	26,061
その他	13,425
営業外費用合計	100,132
経常利益	787,737
特別利益	
損害賠償金	5,678
特別利益合計	5,678
特別損失	
固定資産売却損	42
減損損失	71,895
固定資産除却損	1,253
特別損失合計	73,191
税引前四半期純利益	720,224
法人税、住民税及び事業税	331,738
法人税等調整額	△28,235
法人税等合計	303,502
四半期純利益	416,721

（３）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

当第３四半期累計期間（自　平成25年４月１日　至　平成25年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他（注１）	合計	調整額（注２）	四半期損益計算書計上額（注３）
	イエローハット	TSUTAYA	計				
売上高							
外部顧客への売上高	14,330,086	1,626,866	15,956,953	1,426,630	17,383,583	－	17,383,583
セグメント間の内部売上高又は振替高	17,046	3,622	20,669	3,904	24,573	△24,573	－
計	14,347,133	1,630,488	15,977,622	1,430,535	17,408,157	△24,573	17,383,583
セグメント利益	924,996	24,514	949,511	98,014	1,047,525	△291,128	756,397

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アップガレージ事業、ガリバー事業、ダイソー事業及び保険収入等を含んでおります。

２．セグメント利益の調整額△291,128千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３．セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「イエローハット」及び「その他」セグメントにおいて、営業活動から生ずる損益が継続してマイナス又は継続してマイナスとなる見込みである店舗を対象とし、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当第３四半期累計期間における当該減損損失の計上額は、「イエローハット」セグメントで31,075千円、「その他」セグメントで40,820千円であります。